

24.4.5 日本経済新聞

シラスウナギの 異種輸入始まる 活鰻は台湾産大幅ダウン

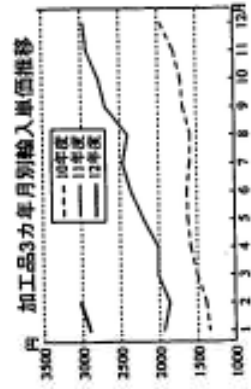
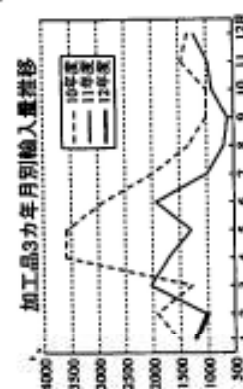


2月分の
産量：シラ
スウナギ
ウナギ加工
品の輸入量は前年同月比五三・
五五％、シラスウナギが二二
ナギ加工品は九九・二で同
九五・五％といずれも前年
同月の実績を下回った。

国別にみると産量は中国
が四二・三、で同八六・
九％、台湾が五七・二、同

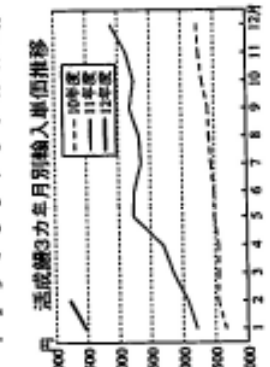
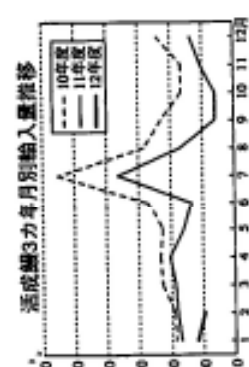
三・八％、オーストラリアが二・
〇九％、同二七・〇％と
と台湾の失速が際立つ集
となった。
シラスウナギは産量が二
二・五％、同三・一六％と
大幅に実績を下回る中で、
前年同月に実績の無かった
フィリピンが五〇％、マダ
ガスカルが三〇％の輸入と
なった。複数産地になると
言われるフィリピンとマダ
ガスカルはマダガスカルは
いずれも産地での通関

となっており、大半が九州
管内で輸入されたと推測
される。
ウナギ加工品は中国が九



九二で同九・二％、台
湾が一九・二で同三・二％
といずれも前年同月の実績
を下回った。
平均単価は産地が三七
四円/kg(前年同月二九三
円/kg)、シラスウナギ
が二〇〇七・四三〇円/kg
(同八二万八二九円/kg)、
ウナギ加工品が三〇

三三円/kg(同八六四
円/kg)といずれも前年同
月の実績を大幅に上回っ
た。
特に、シラスウナギは前
月に続き二〇〇万円/kgを
超える単価での輸入となっ
たが、その一方で異種のシ
ラスウナギの輸入が徐々に
始まってきた。前出の
九州に輸入された異種のシ
ラスウナギは無鰭だが、中



部国際空港に香港から輸入
されたシラスウナギの平均
単価が二七三万〇三六〇
円/kg、福岡空港に香港か
ら輸入されたシラスウナギ
の単価が三九万八七二
円/kgと同一月での輸入で
大幅な開きが出てしまっ
ている。
異種が東海エリア向けに
も輸入されており、そのロ
ットが含まれていることは
想像に難くない。九州・東
海地区のいずれもが値がで
はあるが異種ウナギの輸入
に踏み切っている様子が

窺える。
また、産地は台湾の池在
取が払底状態となる中で、
中国のみの輸入となっている。
ウナギ加工品に関しては中国の上昇幅が大きく、
既に国内の販売価格は一・
五、一・五尾原料までを使
用した製品で軒並み四〇〇
〇円/kgを越えていると言
われる。既にスーパー、量
販店で販売している価格水
準を越えてしまっているに
もかわらず、商社の値上
げが追いつかない程の状況
で、輸入価格に関しても3
月以降上昇を続けていくと
推測される。